

## 会 告 (II)

### 会員拡大運動期間延長について

5月号会告の通り、本会は創立以来鉄鋼に関する学術技術の諸問題を研究調査し、わが国鉄鋼業の振興発達に多大の寄与をなして来たのでありますが、更にその設立の目的に従い、使命の達成を期するために、鋭意会誌「鉄と鋼」の改善を実施するとともに、研究会、講演会、講習会その他の諸事業の推進に努めておりますことは御承知の通りと存じます、しかしながらこれらの企画を継続実施するためには優秀なる会員を多数結集し、協会組織の拡大強化を実現することが何よりも必要であると存じます。よつて各地方支部の熱心なる協力の下にその運動期間を昭和31年5月～7月とし会員拡大運動を展開することと致しました。その結果は会員各位の御斡旋により多数の新入会員を見ることとなり非常の好成績を収めました。なおこの機会に入会を希望する向も少なくないように見受けられますので、更にその期間を2ヶ月間延長することといたしましたので、会員諸賢には何卒この上とも新会員の入会につき御勧誘、御斡旋下さるようお願いいたします。

昭和31年8月

日 本 鉄 鋼 協 会  
記

1. 運動期間 昭和31年9月末まで (延長)

2. 特典 期間中の入会者には特に入会金(正会員200円、学生会員100円)を免除します。

「入会申込書」を5月号本誌に綴りこんでありますから御利用下さい。なお申込書は必要部数を御申越し次第お送りいたします。

### 日 本 鉄 鋼 協 会 入 会 案 内

#### 入会の手続き

入会申込書各欄にそれぞれ御記入の上御申込下さい。

適当な紹介者がいない場合は当会で斡旋しますから紹介者欄は空白のままお送り下さい。

入会金 正会員 200円 学生会員 100円 (8月～9月の運動期間中免除)

会 費 正会員 年額 1,200円 学生会員 年額 800円 (7月より改正)

維持会員 年額 1口につき 5,000円

なお入会金と会費の払込は申込書受理の上入会承認書とともに御通知いたしますから、その上で御払込下さい。

会員の資格 在学中(大学院学生を含む)の方以外はすべて正会員となります。

在学中の学生生徒の方は学生会員となります。但し学籍をはなれた場合はその時から正会員となり、会費もその時から正会員会費を払込むこととなります。

卒業又は学籍からはなれた場合は速かに本会に通知して下さい。

会社、団体の入会は原則として維持会員となつております。

維持会員は1団体何口でも差支えありません、但し1口につき会誌毎号各1冊を無料で配布を受けます。

会員の利益 会員は機関誌月刊「鉄と鋼」を毎号無料で配布を受けます。

本会の編集になる出版物は優先的に御入手出来ます。

本会主催の講演会、講習会及び見学会その他の会合に出席することが出来ます。

質疑その他種々の相談についても自由に申入れることが出来ます。

本会には本部事業の外に各地に支部があり、支部において種々の事業が運営されております。支部地区在住の会員は支部の諸行事にも参加することが出来ます。

会 告 本会から会員への連絡は会告を以つてしますから不断会誌会告欄に御注意下さい。

団体会員 多数会員の所属される団体には幹事がおられて会誌並びに会費の一括取扱いやその他の連絡をとつて頂いております。

入会の際幹事の氏名をお知らせしますから、一応貴方からも幹事迄申入れて下さい。

会員バッヂ 本会の行事に出席の際は会員証として必ず佩用することになっております。入会の際お申込み下さればお頒ちします(実費50円 送料10円)

## — 会 告 (III) —

## 東海支部昭和 31 年度金属材料講習会御案内

当協会東海支部では金属学会東海支部と共催で昭和 31 年度金属材料講習会を下記により開催致します。会員多数御参加下さいますよう御案内申し上げます。

## 記

会 期 昭和 31 年 8 月 23 日 (木) より 25 日 (土) まで 3 日間

会 場 名古屋大学工学部講義室 (名古屋市千種区不老町)

演題, 講師並に時間割

日 次	時 間	演 題	講 師	場 所
8 月 23 日 (木)	10:00 ~11:30	キュボラ溶解に於ける 酸化の問題	理研工業熊ヶ谷工場長 真殿 統氏	名大工学部
	12:30 ~14:00	最近の可鍛鑄鉄につい て	日立製作所桑名工場冶金課長 小山代三郎氏	〃
	14:10 ~15:40	最近に於ける電気製銹 の合理化	矢作製鉄製造部長 多田嘉之助氏	〃
8 月 24 日 (金)	10:00 ~10:30	鋼塊均熱炉自動制御	富士電機本社 本多 孝吉氏	〃
	12:30 ~14:00	熱処理炉の自動制御	日本レギュレーター技術部次長 川元 修三氏	〃
	14:10 ~15:40	平炉の自動制御につい て	横河電機第一営業部長 原田 義富氏	〃
8 月 25 日 (土)	10:00 ~11:30	鋼の熔接性と脆性破壊	名大助教授 工博 小林 卓郎氏	〃
	12:30 ~14:00	白点について	住友金属和歌山工場研究課長 工博 下川 義雄氏	〃
	14:10 ~15:40	稀有元素について	名古屋工業試験所第四部長 理博 梶崎千代利氏	〃

申込締切 昭和 31 年 8 月 15 日

講習料 1 名につき 1,000 円 (プリント代を含む)

受講手続 氏名, 職名, 勤務先, 最終卒業学校名, 住所 (聴講券送り先) 終了証書必要の有無を明記の上, 講習料を添えて締切日迄に「名古屋市千種区不老町名古屋大学工学部金属工学教室日本鉄鋼協会日本金属学会東海支部」宛申込んで下さい。

終了証書 聴講者には終了証書を発行しますから御希望の方は申込の際併せてお知らせ下さい。

以上

## 会 告 (IV)

### 第1回日本アイソトープ会議開催

標記の件について主催者より周知方依頼がありましたので会員各位に御通知致します。なお、論文募集要領の内訳については、その締切が7月31日必着となっており、既に会誌7月号発行後で間に合いませんので省略します。

#### 1. 目 的

アイソトープに関する業績研究の成果を発表し、その技術の向上と知識の普及を図り、わが国産業の振興と国民の福祉増進に資することを目的とする。

#### 2. 会議の内容

##### 第1部 アイソトープ会議

- (1) アイソトープ(安定同位元素を含む)の利用及び放射線化学に関する業績、研究の発表、討論及び一般講演を行う。
- (2) 業績、研究の発表は論文による発表と講演による発表に分ける。
- (3) 論文は一般から公募する。
- (4) 講演による研究発表者は論文提出者の中から主催者が選考して依頼する。
- (5) 一般講演は各部門の研究、利用の現状を部門別に総括して発表する。
- (6) 公募された論文の中優れたもの、及び会議の議事録は「第1回日本アイソトープ会議論文集」に収録、刊行する。
- (7) 特に優秀な研究発表に対しては「会議賞」を授与する。
- (8) 会議はアイソトープ関係の学識経験者、研究者、利用者及びこれに関心を有する者等をもつて構成する。
- (9) 会議の事務局は日本原子力産業会議に置く。

##### 第2部 アイソトープ展覧会

- (1) アイソトープ(安定同位元素を含む)の利用及び放射線化学に関する機械器具並びに写真、図表等を展示する。
- (2) 展示品の出品は学校、官庁、研究団体、会社等に依頼する。
- (3) 展覧会とあわせて平易な解説講演、映画等を開催する。
- (4) 開催地は東京都、次いで大阪市において開催し爾後希望に応じて各主要都市で開催する。
- (5) 展覧会の事務局は毎日新聞社に置く。

#### 3. 開催日及び場所

##### 第1部 アイソトープ会議

8月24, 5, 6日の3日間、午前9時から午後4時30分まで

8月24日(金) 一般講演(各部門の研究利用の現状を部門別に総括して発表する)

8月25日(土)  
8月26日(日) } 各部門の研究発表並びに討論

東京都 産経会館(国際ホール)

##### 第2部 アイソトープ展覧会

8月15日(水)~26日(日) 12日間 新宿伊勢丹7階

会期中毎日、解説講演及び映画 〃 ホール

昭和31年6月

日本原子力産業会議  
主 催 日本放射性同位元素協会  
毎 日 新 聞 社

連絡先 東京都港区芝田村町1ノ1

日本原子力産業会議事務局

電 話 (59) 6981~3

## 会 告 (V)

### 国際選鉱会議開催 (1957年9月18~21日) (International Mineral Dressing Congress in Stockholm)

1957年9月18~21日ストックホルムにおいて開催の国際選鉱物選鉱会議について、同会議事務局長より下記要領の案内状が参りましたので、会員各位にお知らせします。参加御希望の方は協会まで御申出下さい。なお詳細なプログラムと申込書様式は先方から送達あり次第お知らせします。

#### 記

“1952年9月選鉱問題に関する国際会議が英国採鉱冶金学会主催により“Symposium on Mineral Dressing”の題下でロンドンで開催されましたが、その後欧・米各所へこれに関する調査班が派遣されました。越えて1955年5月独乙採鉱冶金学会主催で、ゴスラにおいて再び国際選鉱会議が開かれ多数の参加者が各国から集りました。この会議で次回はスウェーデンの主催で1957年9月18~21日ストックホルムで開くことを申し合せました。発表論文は約25に上る予定で、これについて討論がおこなわれることになっています。論文の約半数は、スウェーデン、ノールウェイ、フィンランドから、残余は欧州内外の諸国から発表されるはずであります。会場は皇室技術学会を充てています。なお、会議の附帯行事として、瑞、諾、芬の諸鉱山への見学旅行が準備されています”。

## 耐 蝕 ・ 耐 熱 材 料 講 習 会

(日本計測学会・学振第97委員会主催)

日本計測学会および日本学術振興会ではこの度下記のように専門の方による耐蝕・耐熱材料講習会を開催することとなり、主催者より周知方依頼がありましたので会員各位にお知らせします。

#### 記

日 時 昭和31年10月3日(水) 4日(木) 5日(金)  
場 所 明治大学大学院講堂予定(国電御茶の水、都電駿河台下車)  
会 費 一 般 1,200円  
主催者会員 1,000円 (テキスト代を含む)  
定 員 150名  
締 切 昭和31年9月29日(土) 着信まで(但し途中定員に達した場合はそこで締切ります)  
申込方法 氏名、勤務先、連絡先を明記して会費を添え下記宛お送り下さい。折返し聴講券をお送り致します。

東京都文京区本富士町1 東京大学工学部 応用物理学科 計測工学教室  
日本計測学会 材料講習会係

#### 講座および講師(10月3日)

防蝕の必要性	日本大学工学部 工博 山本 洋一	金属防蝕法	東京大学工学部	久松 敬弘
金属の腐蝕現象	東京工業試験所 重野 隼太	計測器用非金属材料の耐蝕耐熱性		
金属腐蝕計測法	東京大学工学部 工博 小西 芳吉		富士通信機	坂本 光雄
金属材料の高温腐蝕	東京大学工学部 工博 楢山 正孝	計測器用非金属材料の耐蝕性		
耐蝕用金属材料	科学研究所 伊藤 伍郎		電気通信研究所	福井 猛
耐熱用金属材料	大阪大学工学部 工博 多賀谷正義	討 論		

## 国際鋳物会議開催について

(Internationaler Gieserei Kongress 1956)

上記の会議が、来る9月1日より9日まで西独逸 Düsseldorf に於て開催される旨独逸鋳物協会(Verein Deutscher Giesereileute Düsseldorf, Sohnstrasse 70)より案内があり、参加方招請してまいりました。詳細のプログラムも協会に列着しております。参加御希望の方は協会までお申し出下さい。